

熊本地震

本堂に大きな被害 厳しい現実

熊本地震で、多くの寺院が本堂に大きな被害を受けた。柱は傾き、屋根は崩れ落ち、コンクリート作りの本堂にもひびが。そのままでは危険だと解体を終えた寺、解体中の寺など、厳しい現実があった。

「解体の姿見るの（いらい）」

熊本市南区・浄専寺

鬼木 顕正住職（53）は「200年前に建てられ

熊本市南区の浄専寺の断した柱などが積まれて本堂は、立ち入りが危険な状態となり、5月に入り解体を始めた。

た本堂は誇りでした…。地震で仕方がないことは思いながら、本堂が解体されていく姿を見るのはつらくてね」と本堂から目線をそらし、寂しそうに語った。

けたたましい工事の音が鳴り響き、本堂正面に着けた大型トラックに切り移っていた。

た本堂は誇りでした…。地震で仕方がないことは思いながら、本堂が解体されていく姿を見るのはつらくてね」と本堂から目線をそらし、寂しそうに語った。



柱傾き、屋根崩れ落ち、更地に涙